

U 1 3 U 1 4 東海選抜大会視察報告

報告者：石井 知幸

■目的：3種年代、東海選抜大会における現状の共有

■対象者：3種年代を中心とした静岡県育成指導者

■日時：H 2 6 年 1 月 2 5 日（土） 2 6 日（日）

■参加チーム：東海4県選抜 Jリーグ（名古屋、磐田、清水）JFA アカデミー

■場所：磐田稗原 G 安久路 G

■報告事項

試合の分析と個々の特性を見抜く指導の重要性

U 1 3 U 1 4 ともに、各県選抜チームと、Jチーム、アカデミーは、拮抗した試合を展開していた。数試合、スコアが大差になった試合もあったが、1日目 U 1 3、2日目 U 1 4 の試合を視察したなかでは、大きなチーム力の差は感じなかった。Jチーム、アカデミーは、常に一緒に練習ができるメリットがあり、組織力などの面では、プラスに働く半面、決まったメンバーでチーム編成を行い、各県選抜は、チームとしての活動が時間的に少ない分、選手を選考して大会に臨む。

3種年代の3年間は、身体的な発育の差や、環境面でサッカー選手としての成長曲線はいろいろである。3種年代の指導者であれば、当たり前前の知識だが、指導者は選手個人のプレーの特徴をしっかりと把握し、適正をみながら、選手への固定観念(選手のポジション、プレースタイル)を取り除いて、指導しなければならないと感じた。

オフ ザ ボールの動きの質を上げるためのキイと指導者の関わり「いつ」「どこへ」

「どのように」動くか？ボール保持者への関わりは非常に大切な要素になる。U 1 4 静岡県選抜の選手も、攻守ともにそれらを意識してプレーしている選手は多かった。また、オフ ザ ボールの動きの質をあげるためには、ボール保持者の体の向き、目線、ボールの置き所、試合展開の予測など、細かい状況把握のなかから、アクションを起こす必要がある。ボールを持たない選手が、常にボール保持者（攻守とも）の状況を観て、正確なポジション、アクション（攻守とも優先順位を忘れない）が取れば、チーム全体は、コンパクトな状態を形成し（チャレンジ&カバー To The Ball のサポート）攻撃時には、機をみて相手の背後や、幅をとる動きだしが可能になる。

指導者自身も、ボールウォッチャーにならず、意図的なオフの動き出しや、ボールの位置やボールの保持者の状況が変わるたびに、ポジションを動かしている選手に対しての、働きかけを続け、選手自身にオフの動きの重要性を感じさせなければならない。